

第 11 回院内感染対策中央会議の開催について

1. 開催の目的

平成 26 年に確認されたプラスミドの伝播による多剤耐性菌の院内感染について、専門家による議論を行い、問題点を把握するとともに、個々の医療機関が迅速な対応を講ずるため、現状の院内感染対策の手順を見直すことを目的とする。

2. 検討課題

- 「医療機関等における院内感染対策について」（平成 23 年 6 月 17 日付け、医政指発 0617 第 1 号）では、院内感染のアウトブレイクを疑う際に、「同一菌種」または「同一菌株」の集積によって判断するとする基準を示している。また、保健所への報告についても「同一菌種」の集積によって定めている。しかし、プラスミドを介した伝播により複数菌種による大規模な院内感染の事例が発生したところである。このような事例に対応するため、上記通知の改正を念頭に、新しい基準やそれに関連する問題について検討する。
- プラスミド性の多剤耐性菌の中で特にカルバペネム耐性腸内細菌科（CRE）に関して、院内感染上注意点等について検討する。